

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ご挨拶

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

初夏の陽射しがまぶしい季節となりました。皆様方におかれましては、当顕彰会への格別なご理解とご高配を賜り心より御礼申し上げます。賀茂真淵は、和歌は（日本人の真の心）であり『万葉集』を理想とし、新古今調が主流だった当時でも、力強く素直な「益荒男（ますらおぶり）」の万葉風の歌を復興させようとしました。

年暮れて まだ春に近き まつかぜの

（一年が暮れ、春が近づいてきたが、松風の「待つ」という言葉のように、私の待つ人はまだ来ない。）

と歌われたように真淵の万葉調の美意識が感じられました。

今年の大河ドラマ「豊臣兄弟」です。豊臣秀吉は武人でありながら、茶の湯や和歌などの教養も重視して

梅花 いく千世かけて 咲ぬれど

（千代もの間、咲き誇る梅の花だが、この春の梅はひとしお特別に美しく見える。）

と秀吉らしく優美な歌を残しました。もっとも有名な辞世の歌は

露と落ち 露と消えにし 我が身かな

（露のように現れ、露のように消えていく私の人生だった。天下人として過ごした難波（大阪）での栄華も、夢の中のそのまた夢のように儂いものであった。）

木下勝俊、飛鳥井雅庸や冷泉為満などは秀吉に接し「武家歌人」文化の発展に活躍しました。

今年も新古今調も含めて万葉調に感動する和歌の創作に務めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



遠州に結ばれし学縁

特別顧問 横山俊夫先生に感謝して

日本文化史・比較文明学の研究者であり、京都大学名誉教授でいらつしやる横山俊夫先生は、十年前、公立大学法人静岡文化芸術大学の学長として赴任され、二〇一六年から二〇二二年まで学長を務められ、その後は理事長を兼任されて、大学の発展に尽力してこられました。そして本年三月をもって、その重責を退かれることとなりました。

私も賀茂真淵翁遺徳顕彰会におきましては、再発足以来、故有馬朗人名誉会長とともに特別顧問として格別のご指導を賜り、理事会はもとより例大祭や生誕祭にもご臨席をいただいております。

先生はこれらの行事に先立ち、必ず賀茂真淵を祀る県居神社に参詣され、静かに手を合わせておられました。そのお姿には、学問の源流に対する深い敬意と、真淵の遺徳を今に伝えようとする真摯なお心がうかがわれ、私も一同、深い感銘を受けてまいりました。

とりわけ真淵の著書『国意考』の研究を通じて、その学問の核心に迫ってこられた研究者であります。真淵はそこに、日本の古の心を「ますらおぶり」の精神として見いだしました。飾り立てることのない素朴で力強い心こそ日本の本来の姿であるというその思想は、私どもに深い示唆を与え続けています。先生のご研究は、その思索を比較文明の広い視野の中で読み直し、多くの学びを私どもに与えてくださいました。また課外研修の折には、真淵の墓参をはじめ、万葉の森公園、内山真龍資料館、高天神城跡などにもご同行いただきました。

ご挨拶は、温厚なお人柄からにじみ出る柔らかな京ことばに満ち、理事一同、深く心を寄せてまいりました。理事会が終始和やかな雰囲気のもとに営まれてきましたこと、心より感謝申し上げます。

また助教時代に語っておられたのが、貝原益軒のいわゆる「一日十倍説」であります。益軒は、人は年を重ねるほど歳月を速く感じるが、それをとどめるには「まず心をのどけく閑に保つべし」と説きました。静かな楽しみを持てば、「一日をもって十日となし、一年をもって十年とすべし」というのであります。

先生もまた、そのような静かな楽事を大切にされながら、遠く都より遠州の地に通われ、真淵の遺徳とともに偲び続けてくださいました。そのご厚情は、私どもにとって誠に忘れがたいものであります。

京都にお戻りになられましても、なお変わらぬご指導を賜りますことを願ひ申し上げます。都と遠州を結ぶこの学縁が、これからも静かに末永く続いていくことを心より願っております。長年にわたるご厚情に、深く感謝申し上げます。

「うらうらと

のどけき春の 心より

にほひいでたる 山ざくら花

（賀茂翁家集）



活動報告

課外研修「高天神城跡・相良城跡」訪問

令和7年11月19日

江戸時、小笠地区は国学が盛んな地域であり、八木美穂（やぎよしほ）など優れた国学者を輩出しました。明治維新前後には報徳運動の中心地にもなりました。

今回の課外研修では八木美穂の生家を眺めながら、掛川市の高天神城跡、御前崎市の相良城跡を訪ねました。

高天神城跡では、武田・徳川氏の戦い（第一次と第二次高天神城の戦い）について、山下会長より説明を受けながら城跡を巡りました。相良城本丸跡（牧之原市資料館）では、NHK大河展「べらぼう」を見学するとともに、牧之原市の基礎を築いた名君と評価されている相良藩主 田沼意次の政治について学びました。



高天神城跡にて会長の説明



牧之原市資料館にて集合写真

賀茂真淵翁「生誕祭・講演会」

令和8年3月4日

理事が参列し生誕祭神事を齋行、続けて講演会を行いました。

講演会では「真淵翁周りの異色なエピソード」と題して、賀茂真淵記念館前館長 齋藤慎五様より講話を聴きました。真淵の門人塚保己一から伊沢修二→グラハム・ベル→ヘレン・ケラーに至る連鎖についてなど、興味深い内容の講演でした。



生誕祭神事の様子



講演会の様子（講師：齋藤慎五様）

日頃より当会へのご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。来年度の会員継続につきましてもよろしくお願申し上げます。

令和7年度 事業報告

- 令和7年5月19日 代議委員会
R6 事業報告・決算報告
R7 事業計画・予算案
- 令和7年8月25日 理事会
活動状況報告・会計中間報告
- 令和7年10月30日 例大祭
- 令和7年11月19日 課外研修
高天神城跡・相良城本丸跡見学
- 令和7年12月1日 理事会
活動状況報告・今後の事業計画案
生誕祭・講演会計画案
- 令和8年1月1日 新年祭
- 令和8年2月16日 理事会
R7 活動報告・R7 決算中間報告
特別顧問 静岡文化芸術大学横山俊夫学長退任に伴う件
- 令和8年3月4日 生誕祭・講演会